

	<p>2022年 2月1日 第148号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894</p>
---	---

ヒキガエルがなくなる？！

東京都区部で絶滅危惧種に

そういえば最近見かけなくなったと思いませんか。最後に見たのはいつ？どこだったか？

毎年、カエルたちは赤塚トンボ池に産卵に来ますが、その数も年々少なくなり、オタマジャクシも天敵に喰われてしまう。いろいろ工夫しても思うようにいきません。遅かれ早かれカエルたちに会えなくなってしまうのでしょうか。



2月20日頃から3月初め トンボ池にカエルが来ます

数は減りましたが、卵を産みに来るはずです。クツ、クツと小さく鳴き、バシヤバシヤと水音を立てて、オスと雌が出会います。卵を産むとまた茂みの中に帰っていきます。お近くの公園の池にカエルが来ますか。卵はありますか？オタマジャクシはいますか？

ヒキガエル（正式にはアズマヒキガエル）は2020年東京都のレッドデータで絶滅危惧種になる前は準絶滅危惧種でした。トンボ池のカエルたちを見ていて、カエルが減ったと思ったのは私たちだけではありません。

○赤塚トンボ池近くにお住いの方

前は庭でカエルをよく踏んでしまったけど、最近は見かけないねえ。こう話される方は多い。以前に比べてお住いの庭もきれいに整えられ、周囲も住宅が建ち並び、カエルのすみ場所が少なくなったのでしょうか。

○私の住む中台の集合住宅では、繁殖期に、夜カエル達が調節池に向かって歩いていました。暗いので気をつけないと踏みつけそうでした。最近のカエルたちに出会わなくなりました。また、オタマジャクシから育った豆ガエルが大量にその辺を跳ねていることがありました。それを見つけたムクドリがきてついばんでいました。オタマジャクシは運がよければ（生存条件が整えば）生き残り、豆ガエルが大発生します。大発生するのは、毎年ではないようですが、ここ10年近く見ていません。

○毎朝散歩する西台は、民間の樹林地が残っていてときどき大きなカエルがノソノソ歩いています。去年はカエル2匹が車に轢き殺されていました。残念。その民有地の森も切り倒されて住宅になっています。西台のカエルたちの前途は多難です。

○前野公園で公園の植物の手入れをしていたボランティアの人がカエルがすんでいるよと、写真を見せてもらった。前野公園が改修される前の話です。

赤塚トンボ池は、都会で生きづらい小さな生き物達のためにつくった浅い土の池です。小さな生きものたちとして、私たちはヤゴ（トンボの幼虫）とオタマジャクシを考え、池の名前をトンボ池としました。当時（1999年）、カエルは放っておいても自分で生きていけると思っていたので、オタマジャクシの保護なんて考えたこともありませんでした。

カエルは、昼間は森や茂みにひそんでいるので、見かけることも少なく、また美人とも言えず、関心がない人が多いのではないのでしょうか。

私たちは20年近く毎年梅まつりに出展し、自然を紹介する展示をし、子ども達の工作をやりました。そしてちょうどその時期に産卵に現れるカエルを来場者に紹介していました。

梅まつりが年々大きく立派になり、出展者が増えて、水と緑の会は、2019年から参加しなくなりましたが、毎年梅の季節になると「カエルが来ましたか」とか「オタマジャクシはいるかな」とトンボ池を見に来られる方がいらっしやいます。カエルやオタマジャクシのファンが増えたことは、うれしいですね。カエルたちもがんばってほしいです。



2018年の梅まつりで、トンボ池に来たカエルを見る人達

ヒキガエルは両生類です。両生類とは水中生活と陸上生活の両方の環境が必要な動物ということです。両生類の生息地は河川敷や水辺公園などに限定されますが、そのどちらもが小規模で孤立していて、両生類はすみづらくなっています。

ヒキガエルは赤塚公園や、私の住む中台、西台あたりでもときどき見かけたので、絶滅しそうななんて思いもしませんでした。

絶滅危惧種になった理由として、生息環境の減少の他に、ウシガエルの分布拡大が続いていること、ニホンヒキガエル（西日本に生息する）との交雑が明らかになったことがあげられています。ウシガエル（外来種）もニホンヒキガエルも余所からきたもの、つまり、遊びに行って持って帰って・・放したから??でしょう。人間の行動って自然に対する影響力が大きいのですね。後戻りすることはもう不可能でしょう。

トカゲとカナヘビも絶滅危惧種

どちらも日当たりのよい草地を好み、トカゲは石垣の隙間に身を隠したり、卵を産みます。隙間のある石垣が少なくなり、また草がぼうぼう生えている場所が少なくなり、餌となる昆虫類が減少したことが絶滅危惧種に指定された理由です。カナヘビ（ニホンカナヘビ）は2020年に新たに絶滅危惧種になりました。

「ニホンカナヘビは日当たりの良い草地等を好んで生息するが、区部では見かけることが減っていることから、急激に個体数が減少している可能性が高く、区部のランクを前回の準絶滅危惧種から絶滅危惧種に上げた。原因としては、「都市化により雑草が放置されている場所が減少したこと、餌となる昆虫類が減少したことの両方が考えられる」とありました。



(左上) トカゲがトンボ池の石の上で日向ぼっこしているのをよく見かけます

(左下) 獲物のバッタを追ってトンボ池を飛び出したカナヘビ（口にバッタをくわえている）



(下) バッタ広場の草むらにあった卵（カナヘビの卵らしい）

水と緑の会では「環境なんでも見本市」に出展します。テーマは

「公園にもっと自然を！」



私たちは、生き物達のための草原（バッタ広場）と水辺（トンボ池）をつくり手入れをしています。池と草地だけでは充分ではありません。公園の全部を人間中心に考えないで、人が利用しにくい場所を生き物のために残してほしい。

例えば落ち葉や枯れ草の山・枯れ枝

11月末に落ち葉と刈った草の下にヒキガエルがいました（写真左上）。カエルたちはこういう場所で越冬したりします。草むらをなくし落ち葉を片付けるとカエルたちが暮し、越冬する場所のひとつがなくなります。



左中は、トンボ池の裏にある枯れ木の山です。落下した枝、切った枝を積んでおくと、枯れ木を食べる虫がすみ、枝の隙間にトカゲやカナヘビが暮らします。菌類が分解して土に帰る過程で、様々な生き物が利用します。



左下はバッタ広場で刈った草を積んだ堆肥置き場。カブトムシの幼虫が出てきたりします。

カエルは、こんなところにいるクモや昆虫や、ミミズを食べるのでしょうか。



環境なんでも見本市 見てね

いたばし水と緑の会は「公園にもっと自然を！」のテーマで展示します。

日時 2月1日(火)～3月1日(火)

オンラインの場合 エコポリスセンターホームページ

<https://itbs-ecopo.jp/event/act/mihon-ichi/post-30349/>

リアル展示の場合 エコポリスセンター地下1階(最終日は12時)

トンボ池と冬の作業

トンボ池には、ヒキガエル、トカゲ、カナヘビの他に、ヘビの仲間のヒバカリ(絶滅危惧種)とアオダイショウ(準絶滅危惧種)がいます。みんな生きた生き物を食べる肉食性の生物です。トンボ池とは、トンボばかりでなく、トカゲやカエルなどがすむ場所、かれらのエサとなる虫などの生き物のすむ場所なのですね。

春はじめ、植物が芽を出し育ち始めた頃のトンボ池は最高です。トンボ池はみずみずしく自然そのもの。夏になって草が生い茂ると、環境課から区民から苦情が来たという連絡がありました。役所は苦情を言われないようにしてほしいし、私たちもビオトープが嫌われるより、自然の池はいいね、と言われたい。生き物達のすみやすさを考えながら、人にとって不快にならないようにするのは、むずかしいテーマです。「きれい」「きたない」は人によって感じ方が違うからです。

12月18日観察会

生き物達のことを考えたトンボ池と水路の手入れはどうあるべきか、考えました。

この辺りのたまった落ち葉の下にカエルさんがいました(4頁写真)。

だから落ち葉はそっとしておきます。草刈りは、伸びたササのみ刈り取る程度にします。

この日池に水が入ってこないように水路の分岐で土嚢を置いて塞ぎました。

丈の低いササは刈りません。伸びたササは強靱で切るのもやっかいなので、大きくなる前に刈ります。



水路の分岐付近

枯れた野草（ヤブミョウガやミズヒキなど）は除去します。枯れ草は嫌われそうだからです。ヤブミョウガの実には野鳥が食べるのではないかと松崎さんに言われました。そうかもしれません。でも細い草の茎についた実は食べづらいので、倒れた草の実や落ちた実を食べる方が多いのではと思いましたが・・・先入観は禁物、よく観察しておきましょう。

この日は、枯れた水草を程々に刈り、池周りの枯れたヤブミョウガやミズヒキ、イノコズチなど



を刈り取りました。また池の落ち葉をすくい上げました。池底にたまった落ち葉は腐ってヘドロになるからです。

池の水が引いたら、底のヘドロを掻いて、空気に晒して（酸素を供給して）ヘドロの分解を促進させます。冬の間池底に潜っていたザリガニも見つけ次第捕殺していますが、殺生しても池の環境がよくなるとも思えず悩ましいところです。池を干しての作業はヤゴがいない前提の作業

ですが。

1月6日に雪が降り、9日の作業は16日に延期しましたが、11日の雨で水がたまり、また延期。2月中頃からカエルたちが池に来るので、作業は2月10日頃には終らせたいところです。この池は、防水のためゴムシートをはり、さらにベントナイトで防水し、粘土をはっています。しっかり乾かないと、ぬかるみは「とろろ芋」状態でお手上げです。

アメリカザリガニのこと 「身近だけどヤバイ奴！」

ザリガニが水辺の生態系に非常に大きな影響を与えていることは以前から問題にされていました。令和3年1月「中央環境審議会」で対策が必要という答申がありましたが、特定外来生物への指定は見送られています。あまりにも身近な生き物のため、法制化によって棄てられるなどの弊害が大きいからという理由です。ザリガニは家庭で飼ったり、学校で飼ったり、ザリガニ釣大会をしたり、ザリガニをオマケに配ったりと、気軽にやりとりしてきましたが、今でもやっているのでしょうか。

もし、トンボ池にザリガニがいなかったら、トンボたちの羽化が見られたら、どんなに楽しいだろうと思います。ザリガニだけが悪いわけではありませんが、ザリガニの影響は本当に大きい。トンボ池ができてから、ずっとザリガニ対策のことばかり考えてきました。池が深いときはカニ籠、浅くしてからは、ウナギ用のウケ（竹籠）、モンドリなどいろいろなトラップを試してきま

した。頻りに設置して回収しなければならない、人目に付くので、興味津々でトラップを引き揚げて放置されたり、（お金もかかっているの）を持ち去られたり、壊れたり・・・コサギやカワセミが来たこともありました。いっぱい食べていってほしいのですが、なぜか続けて来ない。カルガモはオタマジャクシだけ食べて、ザリガニは食べないし・・・オタナジャクシとザリガニの様子を見ながら、今年も悩むことになりそうです。

バッタ広場の冬

1月になると、クズもすっかり枯れて紙くずのよう、他の野草たちも茶色に枯れて、ササばかり青々としています。せつせと刈って広々としてきました。

保育園の子ども達が来て、枯れ枝を積んだ場所でトランポリンをしたり、切った笹や枝を振りまわしたりして楽しそうです。

手が回らなくて、そのままにしてあったササは、丈が高く硬くて、切るのも大変。切り口が鋭いのでハサミや枝切りばさみで地際で切り直します。虫好きのあ



ちゃんがアオスジアゲハの蛹を見つけましたが、他の虫たちは見つからなかったみたい。ササを刈りながら、「カマキリの卵が少ないね」「カマキリは夏も少なかったね」「ツチイナゴも少なかったし、アカボシゴマダラも見なかったし」。虫が減ったとみんな感じています。高齢ボランティアの負担の少ない手入れで生き物が暮せるバッタ広場を考えましょう。

余談ですが 会報「みずみどり」の用紙とリサイクル



お届けしている会報「みずみどり」の用紙は再生紙（わら半紙）です。普通の紙と見くらべてみてください。真っ白ではありませんが、遜色ありません。

今話題のSDGsのひとつに、「つくる責任 つかう責任」があります。

私たちはニュースの印刷は以前からリサイクル紙でお願いしています。また封筒もリサイクル紙の封筒を取り寄せて使っています。以前は「グリーン購入」がPRされていて、再生紙100%の紙（上のエコマークが付いている）も多かったと思うのですが、スーパーで見たら、再生紙100%の商品はノート1種類のみ。かわりにFSC認証マークの用紙があり、無表示の用紙も多かった。FSCとは、管理された森林で伐採された木材を使用しているという意味です。リサイクルされた紙が少ないのはなぜかわかりませんが、残念です。

観察記録（11月27日～1月22日）

ザリガニ（多）、オオカマキリ卵、ハラビロカマキリ卵、キイロテントウ、ミズムシ（水路）、アオスジアゲハ蛹、ウスバフユシャク（水路）

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894
坂本 090-4618-1295

1 赤塚城址自然観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。コロナ禍でもできること一生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に戻します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

2月13日（日） 10:00～11:30

3月13日（日） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装で、軍手、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

2月26日（土） 10:00～11:30

3月26日（土） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

3 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

2月6日（日） 10:00～11:30

3月6日（日） 10:00～11:30

4月3日（日） 10:00～11:30

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。